

●セッション【16】特別セッション

「経営学の道具箱」

- * 清水洋(早稲田大学商学学術院教授)
- 稲水伸行(東京大学大学院経済学研究科准教授)
- 佐々木秀綱(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授)
- 坪山雄樹(一橋大学大学院経営管理研究科准教授)
- 永山晋(一橋大学ソーシャル・データサイエンス教育研究推進センター准教授)
- 村瀬俊朗(早稲田大学商学学術院准教授)
- 山口真一(国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授)
- 山野井順一(早稲田大学商学学術院准教授)
- 吉岡(小林)徹(一橋大学大学院イノベーション研究センター専任講師)

*セッション・リーダー

[概要]

木を切るのにはノコギリが適していますし、外科手術にはメスが必要です。用途に合った道具を選ぶことが大切です。現在、経営学でも実証的な研究の手法が大きく進展しています。その一方で、重要な問いや分析の対象はビジネスや社会のあり方によって大きく変化します。問いや分析対象、あるいは仮説や利用可能なデータが異なれば、適した研究手法も異なるはずで、手法に合わせて問いや仮説を考えるのではなく、問いや仮説に合わせて適切な手法を用いることは大切です。本セッションでは、『組織科学』第54巻4号と第55巻1号での「経営学の道具箱」特集の執筆者にもう一度集まってもらい、特集号では書けなかった道具の長所と短所、上手い使い方、まずい使い方を説明してもらった上で、道具の組み合わせによる新しい研究の開拓をフロアを含めて議論していく予定です。

[参加者へのメッセージ]

ノコギリで外科手術をしようとしている方や、メスで木を切り倒そうとしている方、ご自身、あるいは指導する学生の道具箱をアップデートしたいと思われる方、そして、手法の組み合わせにより研究の新たな開拓を行えないかと考えている方に、ぜひとも参加していただきたいと思います。また、経営学にはさまざまな研究手法があり、その全てを本セッションの登壇者でカバーできるわけではありません。そのため、特集号で取り上げた手法以外で研究を進めている方々にもぜひとも参加していただき、ご意見をいただければと願っています。ぜひとも、組織科学の『経営学の道具箱』のⅠとⅡ(54巻4号と55巻1号)を読んでからご参加ください。